

下曽我地区



【地区の自然環境概要】

下曽我地区は、森、里及び川の要素を持つ地区です。

西部にある下曽我駅を中心に緑の多い住宅地があり、梅林や畑地、水田も広範囲に広がることから、田園環境を好む動植物の生育・生息の場所となっています。

中央部から北東部にかけてはミカン畑などの果樹園から森林に遷移する大磯丘陵地帯となっており、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

西側には森戸川が流れ、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地から丘陵地に変遷する里地里山環境が主に広がり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。また、里地里山では人間と動植物の関わり合いが重要であり、うまく共存していく必要があります。

- 曽我の二次林、人工林が広がる樹林では、イヌシデやエノキ、アオキ等の植物、タヌキやニホンジカ等の哺乳類、アオゲラ等の鳥類、ナナフシモドキ等の昆虫類が見られ、樹林を特徴づける種が生育・生息しています。¹
- 剣沢では、ミソザイやキセキレイ等の鳥類、オニヤンマやゲンジボタル等の昆虫類などが見られ、水辺を特徴づける種が生息しています。²
- 「**曽我の梅林**」は、梅林が広がる特異な環境で、クワクサやカタバミ等の植物、アズマモグラ等の哺乳類、ツグミやホオジロ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類、ウリハムシ等の昆虫類などが見られ、農耕地環境を特徴づける種が生育・生息しています。³アムールハリネズミ（外来種）は市内で唯一梅林で確認されています。また、梅林に特異的に出るウルハルシメジという食べられるキノコも生育しています。⁴

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査



アオキ

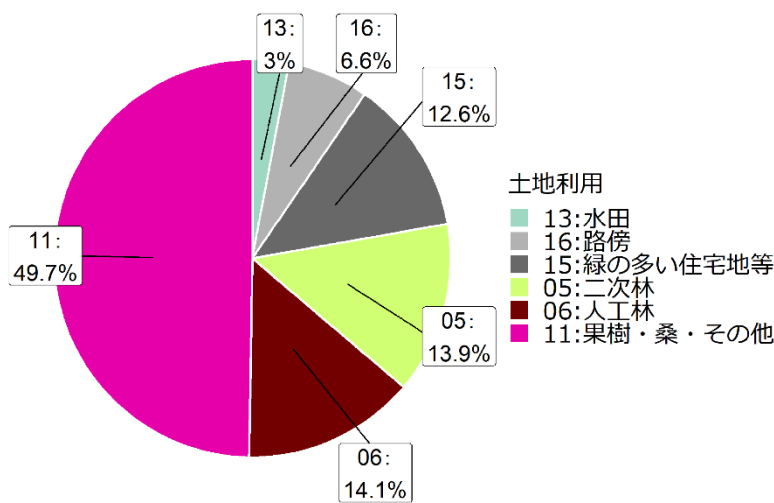


ニホンジカ

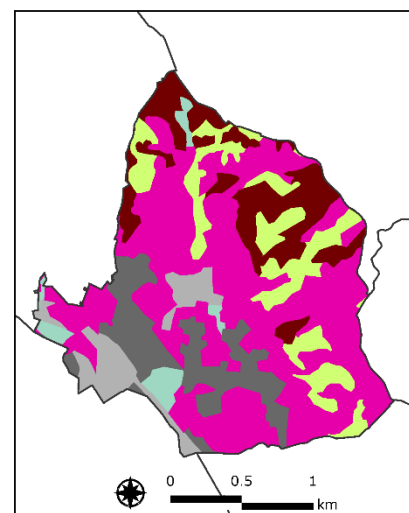


ツグミ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、果樹園が約 5 割を占め広範囲に広がっています。東部の丘陵地には人工林や二次林が広がっています。西部は路傍及び緑の多い住宅地等が広がり、一部では水田が見られます。⁵



下曾我地区の土地利用割合



下曾我地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：剣沢川の上流、剣沢山の深い谷筋に二段の滝があり、上段は「**鎧の滝**」、下段が「**弓張の滝**」と呼ばれてきました。室町時代、剣沢には剣状の岩が立ち、名所として知られていました。また、戦国時代には、小田原北条氏配下の数人の若侍たちが、この滝の下で藤の花見を楽しんだと言われています。⁶「**弓張の滝**」は、地層や断層の観察やアラカシやシラカシなどの林と下草、ウワミズザクラ・クサギなどの花、サワガニやトンボ類等、丘陵の自然観察にも適しています。⁷
- **自然体験・観察の場**：「**曾我梅林**」では、食用の梅を生産するとともにその花の美しさ、可憐さ、高貴さを楽しんでいただくため、約 40 年ほど前に地元農家が実行委員会を作り、梅祭りを開催するに至りました。「**曾我梅林**」は、中河原・原・別所（当時）の各梅林からなり、約 35,000 本の白梅が植えられています。食用梅の生

⁵ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁶ 出典：現地看板説明文（小田原市教育委員会）をもとに作成

⁷ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所,平成 9 年（1997 年））

産が目的のため、その殆どが白い花の白梅になっています。⁸

- **自然体験・観察の場**：「六本松跡」は、曾我山（当時山彦山といった）の峠道で、六本の古松があったことからこう呼ばれています。この峠は鎌倉時代、曾我氏・中村氏・松田氏・河村氏の各豪族の居館と鎌倉を結んでおり、曾我別所から足柄峠へと通ずる「鎌倉道」、大山からこの峠を越えて高田・千代・飯泉へ通ずる「大山道(中村通)」、そして押切方面より小田原に至る「箱根道」が交わる重要な峠であったといわれています。⁹現在は、一本の松も存在しませんが、アラカシ・シラカシなどのカシ類やサネカズラやヤブミョウガの花や実等の丘陵の自然観察に適した場所となっています。¹⁰
- **保全活動等の場**：桑原・鬼柳用水路では、「市の魚」である在来メダカや希少植物が生息・生育しており、市民や環境関連団体による保全活動等も行われ、貴重な環境が大切に守られています。
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「宗我神社」では、五穀豊穡を願う祭礼が行われ、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。

◆「宗我神社」

宗我神社は、長元元年（1028年）、宗我播磨守保慶の建立で、宗我氏の祖先を祀った神社といわれています。曾我郷六ヶ村（上曾我、曾我大沢、曾我谷津、曾我岸、曾我原、曾我別所）のそれぞれの鎮守を明治時代に合祀し、曾我の里の総鎮守となっています。宗我神社祭礼は五穀豊穡を願う祭礼で、各地区の山車5台と神輿1基がそれぞれの地区を回り、猿田彦を先頭にお宮入りがあります。お宮入り後、1台の山車に高砂の人形が飾られ、お囃子と舞を奉納した後、下曾我駅に向かいます。¹¹

- **その他の資源**：北部には「酒匂堰」があります。過酷な労働に加え、天災など種々の要因による凶作の不安に脅える状態が続いていましたが、戦後になり農業基盤の改善が急速に進められました。酒匂川以東の水田を潤す「酒匂堰」は、酒匂川左岸土地改良区によって昭和27年（1952年）に着手、満7ヶ年を費やし完成したものです。¹²
- **景観スポット**：「曾我山（大磯丘陵）」からは、山裾に広がる梅林を見下ろしながら富士山を見ることが出来ます。早春の梅の花、夏はミカンの花の香り、秋は色づいたミカンなど四季折々の色が楽しめます。¹³また、「足柄平野」に広がる水田と、そこから眺める四季折々に変化する空や雲、山の美しい風景は、小田原の原風景にもなっています。

～食のつながり～

- **果樹**：土地利用の約5割を占める果樹園は、市内でも上位¹⁴の面積を保有し、ウメやミカン等、季節ごとの味覚を供給しています。

⁸ 出典：曾我別所梅まつり観光協会 HP <https://soganosato.com/index.html>

⁹ 出典：小田原市 HP 観光 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/corridor/brother/p10020.html>

¹⁰ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成9年（1997年））

¹¹ 出典：小田原市 HP 観光 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/event/SEP/sogasairei.html>

¹² 出典：小田原市 HP 小田原デジタルアーカイブ <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/darc/item/197/>

¹³ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課、平成19年（2007年））

¹⁴ 出典：農林業センサス2015

【地区で見られる特徴的な自然】

生物多様性保全上重要な里地里山や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **生物多様性保全上重要な里地里山**：上曾我は、さまざまな命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、次表のとおり保全地域に選定されています。

生物多様性保全上重要な里地里山（環境省選定）概要

名称	選定理由	保全活用状況
上曾我	市の北東部に位置し、曾我山の緩やかな傾斜面の樹林地と水田地帯からなる地域である。 古くからある集落に発達した社寺林・屋敷林が残されており、里地里山に特徴的な種であるエノキが生育している。また、当地区は不動山・浅間山を中心とするまとまりの緩衝地帯と考えられており、地域の生態系ネットワークの形成において重要な地域である。	農林業等の生業・くらしの場として保全活用されている。

※出典：生物多様性保全上重要な里地里山 <https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html>

- **巨樹・巨木林**：「宗我神社」に生育するケヤキは、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁵で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

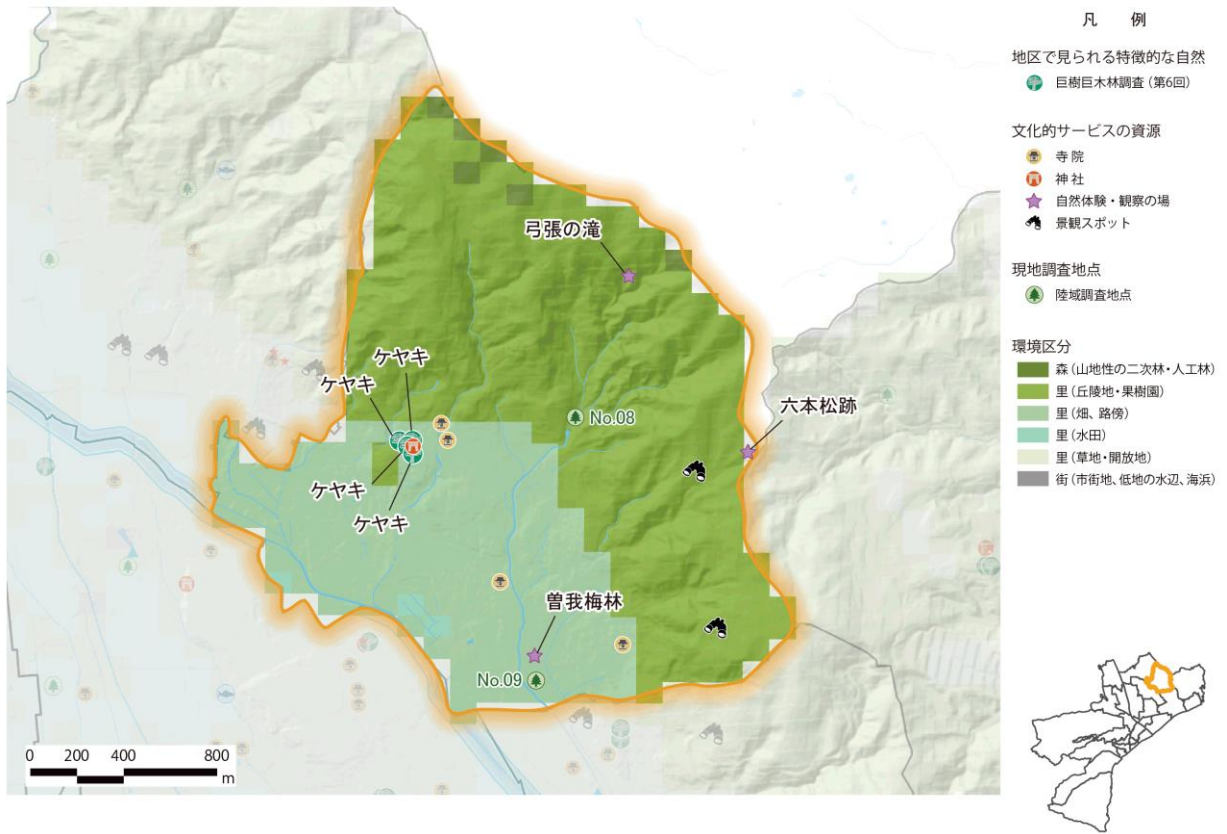
巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
宗我神社	ケヤキ	20	440	平成12年（2000年）
	ケヤキ	20	340	平成12年（2000年）
	ケヤキ	20	345	平成12年（2000年）
	ケヤキ	20	330	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ多様性が高いと評価された現地調査地点「陸域 No.8（曾我谷津の劔沢川源流部付近）」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。

¹⁵ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



下曾我地区の自然環境マップ